



11月冬のトピックス

●20年ぶりの沖縄訪問

●ボジョレー・ヌーヴォーの飲み比べ

●お知らせ

20年ぶりの沖縄訪問



師走が近づき神戸も一層寒さが厳しくなってきました。
皆様、いかがお過ごしですか？
私は11月の連休を利用して沖縄旅行に行きました。
今回は暖かい沖縄の話題をお届けしたいと思います。

那覇空港に到着すると気温は24℃。南国特有の強い日差しに迎えられました。早速、ツアーバスに乗り込み、まずは沖縄戦の歴史を学ぶために本島南部の「ひめゆりの塔」と「旧海軍司令部壕」を訪れました。ひめゆりの塔は、沖縄戦末期の激しい戦闘でほぼ全滅した沖縄陸軍病院第三外科壕の跡に立つ慰霊塔です。慰霊塔はひめゆりの塔だけでなく「ずみせんの塔」や「ひむかいの塔」など複数が周囲の地に存在することを知りました。資料館の展示品では当時の女学生の学校生活を知ることができましたが、未来の希望に夢膨らませるはずの学校生活から一転して、悲惨な戦争体験で多くの学生たちが命を落としたことが残念でなりませんでした。

左の写真の右奥のほうがひめゆりの塔です。右の写真が実際の壕の入り口です。



引き続き豊見城の小高い丘にある旧海軍司令部壕を見学した。地下の要塞として全長450mあった壕の一部が復元され一般公開されている。持久戦のためこの狭い壕に4000人兵士が収容されていたとは驚愕です。壕には通信室、医療室などありますが、幕僚室の白い漆喰の壁には手榴弾で自決した時の破片跡が無数残っています。それを見ると戦争の悲惨さを感じずにはおれません。また壕の上は資料館があります。そこには司令官の少将が書いた家族宛の数々の書簡が展示されていた。私の祖父も衛生兵として南方に出兵して帰らぬ人となっていたため、写真でしか見たことのない祖父の心境を少し想像しました。この日は戦争による沖縄住民の犠牲の多さと現在の平和を感謝して手を合わせました。

2日目、広大な海洋博公園内にある世界一の飼育・展示内容を目指す、沖縄美ら海(ちゅらうみ)水族館を見学した。ここはハイビスカスの花が咲き、エメラルドビーチと呼ばれる美しい海があるきれいで眺めの良い海洋公園です。その公園内にある[美ら海水族館](#)のメインスポットは「黒潮への旅」展示です。大水槽が圧巻で青い水中を悠々と泳ぐジンベイザメや、ヒレを上下させ空を飛んでいるように見えるマンタの姿に癒された気分になりました。



このほか屋外で「オキちゃん劇場」と命名されたミナミバンドウイルカ、オキゴンドウによるイルカショーを見学しました。オキゴンドウはバンドウイルカと比較すると胴長で頭でっかちな体型ですがジャンプや、アシカのように台に上がってのパフォーマンスもできる芸達者でした。その他マナティやウミガメが見られる施設あり、もっとゆっくり見学したかったのですが時間不足で残念でした。



次は、琉球王国の栄華の証、首里城跡に移動しました。首里城跡は「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として2000年世界遺産登録されました。



首里城公園となっている城跡見学のコースのスタート地点は皆様、ご存じの守礼門です。(左の写真上) 案外小さいですが、国王や王妃は中央をくぐると聞いて真ん中から入りました。そこからなだらかな坂や階段を上り首里城正殿に到着します。正殿の色は少々赤茶というか、海老茶に近い彩色です。そこに獅子と金龍、唐草などの極彩色の彩色があります。内部は畳敷きの部屋もあるし、板の間に王様の座る玉座もあって日本と琉球、中国建築様式のミックスした建物から琉球文化を実体験できました。約50

0年にわたり琉球王国の城であった首里城は1992年に復元されていますが、復元された城は世界遺産ではないそうで、現在も城跡発掘と城の復元を並行に進めていました。

城跡公園内には、御嶽（うたき）という、琉球の信仰の宗教施設もありました。ここに御神体はなく自然そのものを崇拝するらしく琉球独自のものであることを知り

ました。そんなことからアジアの隣国、韓国や中国の文化・風習などは本で読んだり、ドラマや映画を見たり知識がありましたが現在は日本の沖縄である琉球王国の歴史、文化や風習などまだまだ知らないことが沢山あると思いました。

次は那覇「[国際通り](#)」を散策しました。那覇市の県庁舎北口交差点から1.6km続く通りは、「[奇跡の1マイル](#)」とも呼ばれる戦後の焼け野原から目覚ましい発展を遂げた県内で最も賑やかな通りであり那覇最大の繁華街です。



この通りは現在、観光地の繁華街として整備され土産物

店や飲食店が多く立ち並んでいます。土産物で売っていたのはお菓子類です。名物のサーターアンダーギーや[お菓子御殿](#)の紅芋タルト、[新垣ちんすこう本舗](#)のちんすこうです。ちんすこうは、クッキーのようなもので、現代版として黒糖、塩、紅芋などの味がありました。

そして私が目指したのは国際通り中央のむつみ橋交差点を右折した一角にある「沖縄の台所」と呼ばれる、牧志公設市場です。20年前に来た記憶を頼りにたどり付きましたが、随分と奇麗になっていました。市場では精肉、野菜、くだもの、惣菜など様々な沖縄食材を見て歩けます。特に鮮魚屋では、本土で見かけない青や赤色のカラフルな魚介が食用として並んでいて楽しいです。公設市場2階には食堂街があり琉球料理が楽しめます。屋台風で1品が300円～なのでひとり旅でも入りやすいと思います。



では得意のグルメネタを公開します。スクガラス、島ラッキョウ、豆腐よう、ジーマーミー豆腐、海ブドウ、沖縄そば、ソーメンチャンプル、ミミガー、ソーキ、クープイリチー（昆布の炒めも

の)、ゴーヤの漬物などの琉球料理を頂きました。そして初めて沖縄県の魚のシンボルとなっているグルクンを食べました。グルクンは唐揚げでよく食べるそうですが、おこぜのような白身魚の淡白な味で気に入りました。そして琉球料理とともに喉を潤したのは、地元のオリオンビールです。南国の気候にあった、すっきりした味のビールです。

それと、季節柄、沖縄におせち料理があるのか疑問でした。やはり、おせち料理や雑煮はないのですが、祝いの席や親戚など皆が集まる席での定番料理はありました。料理の中身は、カマボコや豚の角煮、昆布の煮物などで、なんとなくおせち料理風です。汁ものは「ナカミのおつゆ」という豚モツのお吸い物を頂くそうです。またお祝い事には欠かせないお菓子が沖縄名物サターアンダーギー。この時は普通のサイズより大きい直径 12cm から 15cm くらいのものが作られたりするそうです。このサターは、砂糖という意味、アンダーギーは油+揚げという琉球言葉でした。このように食べ物からも琉球は異なる文化を持つ国ということが分かりますね。

10年ひと昔と言いますから、那覇市内の発展を見て20年の月日の長さを実感した。那覇空港も新しくなり市内までは沖縄唯一の電車、モノレールが走っています。市内には米軍基地返還後の用地を再開発した新商業地区「おもろまち」と呼ばれる新都心に大型のショッピングセンターや集合住宅も開発され那覇の街は観光地として生まれ変わっていました。

前回の沖縄訪問は出張でしたが、今回は観光目的で世界遺産や水族館観察、琉球王国の文化や戦争の歴史を学びながらリゾート気分を満喫してきました。沖縄ではカラオケで涙そうそうも歌いながら、ゆったりとした時間の進み方や、地元の人のおおらかさから、リラックスしてきました。オススメです。

ボジョレー・ヌーヴォーの飲み比べ

フランスワインの産地、ボジョレーで毎年 11 月第 3 木曜日に解禁される、その年のブド

ウの出来栄えをチェックすることを主な目的とした特産品の新酒をボジョレー・ヌーヴォーと呼んでいる。今では日本でも国民的行事になり今年は1



1月19日がボジョレー・ヌーヴォー解禁日でした。新酒であるボジョレー・ヌーヴォーは、フランスワイン協会が、「100年に1度の出来」などと、毎年評価をしますが「今年は不作」ってネガティブな評価は近年は聞いたことないように思います。もちろん農作物は自然相手だからブドウの出来の良さや、不出来はあると思

いますが、ワインの製造技術向上で大量生産でも良い品質のものが出来る技術の進歩もあり毎年、一定水準以上の出来だと思

います。ボジョレーにはガメイ種という種類のブドウが使われます。このガメイ種は残念ながら私好みのブドウではないので普段は飲みませんので、毎年ヌーヴォーの1~2本を楽しみます。今年

は解禁日直後の週末に女性の友人5人で集まりヌーヴォー3種を飲み比べるホームパーティを開きました。ヌーヴォーは若い作りたての新鮮さが売りです。今回選んだワインはいつも頂くショップの御自慢の1本なのでどれも出来がよくてみずみずしさがありました。

3種のワインリスト

1) マドンヌ ボジョレー・ヴィラージュ Domaine de la Madone. Beaujolais Village 2009 Nouveau

後味にイチゴジャムの豊かな香りが広がります。

2) ルイテート ボジョレー・ヌーヴォー2009

アンティークボトルに素敵な手書き文字のエチケット。みずみずしい味わいでした。

3) ルペ ショーレ ボジョレー・ヌーヴォー2009

スマレの花の香りでボジョレーらしい味です。

ワインのつまみには友人手作りの豪華メニューが並びました。ローストビーフ、タコトマト煮、スタッフド・エッグ、かぶと柿のマリネ、アンチョビ入りのポテトサラダ、ハムとウインナーパン、ポップコーンな



どを用意してくれました。ありがとうございます！私としたことが肝心の写真を撮ることをすっかり忘れ、豪華ホームパーティの風景を掲載できないのが心残りです。ですから右の写真はイメージです。

気の置けない友人達とのパーティはやはり楽しいものです。

ウイズワンお知らせ

年内最後のニュースレターになりました。今年もお読み頂きありがとうございました。

前回の配信後「20号になりましたね。おめでとう！」という激励メールを頂きました。ありがとうございます。2007年から始めたこのニュースレターは、もう足掛け3年になりました。振り返るといろんなことを書いてきました。当初はホームページに役立つ情報なども掲載していましたがこれが不評でしたので、2年目からはグルメや旅の話題に方向転換したことで随分書くことが楽になりました。とはいえ発行日に仕事納期が重なったりすると原稿作成が大変でしたが一度決めたことを継続するにはエネルギーが必要だということを痛感しています。でも仕事での会話のきっかけに役立っていますし、「いつも読んでいますよ。」とお声を掛けていただくことが毎回の励みになっています。これからも堅苦しくない、明るい話題を提供していきたいと考えています。この場を借りて見守って下さる方々にお礼を申し上げます。

株式会社ウイズワンニュースレター編集部 発行人 迫前美鈴

株式会社ウイズワン

〒650-0022 神戸市中央区元町通6丁目8-10 山端ビル206 TEL:078-360-6115

【ホームページ制作】<http://blog.withone-jp.net>

【セールスサポート・セミナー】<http://withone.net>

【美酒美食ワインブログ】<http://bichelin.exblog.jp/>

Copyright©2009 WITHONE ,All rights reserved.